いる状態で，お金を出してもお米が手に入らず，止むなくウドン腹をかゝえて，山登りをする破目となったこともある。

ところで，日本人の挨拶は，天候に関することが多いと云われるが，われわれフィールドに出ることの多い者は，天気に余計関心を抱かざるを得ない。都会にいれば，天気予報の適中率の悪さに文句をつける位で済むが，高い山などでは時に生死を分つからである。そこで，天気予報ならぬ天気予感を試みることになる。いわゆる観天望気は，局地的な天候の推移に知識があれば，かなり信頼できるものらしい。式先生と赤石山地を訪れた時，塩見岳近くの小ピーク高谷山の頂上で，暮れかゝる西の空の，澄んだ青空と縁辺を輝かせる層積雲の美しさに息をのんだことがあるが，期せずして二人の口から洩れたのは，〃明日は嵐だな〃という言葉であった。果して翌朝は雨，濡れそぼれながら，下界への道を辿ることとなった。別の時，同じ南アの赤石岳の頂きで，晴れ渡った朝の空の一隅に，数条の巻層雲を眺め，道を急いで，小屋の直前で雨となったこともある。

さらに神がかり的となると，長期予感も偶然適中することがある。昭和29年，今年は空梅雨に近いぞと，気象庁予報に対抗して予言したところ，東日本ではまさに空梅雨模様，気候学専攻のM先輩に動物的感覚と笑われた。

南極のような気象資料の乏しいところでは，予報はさらに予感的となる。専門家はさすがに慎重で，なかなか明確な結論を下さない。そこで素人達はわいわい始める。ことに，突如として天候が変って痛い目に遭わされることにでもなると，空を眺める習性も自然に身につく。昭和基地では，気圧が極めて低い時でも，天候が良いことが多いが，気圧がぐんぐん上昇してくる時は危い。次にガクンと急降下して嵐となるからである。バロメーターに目をとめての予感は，フィールドでは難しい。風向や風速，気温を頬で感じながら，雲行きを確かめる。こうした皆の経験を基にして，観天望気の *manual* を考えたこともあった。

近頃は，トランジスタラジオの御蔭もあって，こうした原始的感覚は鈍ったらしい。しかし，こんな事も考えながらフィールドを歩けば，暑さも寒さも，また悪天候にも，さして腹が立たなくなるのは，天気予感の妙味である。

お茶大に来て

原　　高　則

3月末日。送別会の席で騒がしく話す私に向って同級生の一人が言いました。「君は何処へ行ってもいいけどあまり喋らないほうがいいよ。喋ると地がでてしまうが黙っていれば結構，貫録があって立派に見えるよ。」ほめら

れたのかけなされたのかわからない，妙な気持になったあの日から2ケ月が過ぎようとしています。

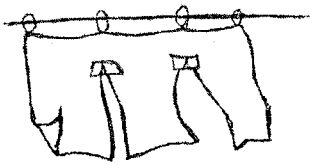
お茶大に助手として勤め始め，以前に比べ毎日規則正しい生活をおくるようになった私は，このわずかの間に，いくつかの変化ある新しい事柄を見聞きしました。そのことについて少しばかり述べてみたいと思いますが，なにぶんにも生活経験が浅いので，自分の学生生活と比べてしか感想を述べることができません。教養高き女性の育成を目指すお茶大と野人精神を背景にする早稲田とでは，伝統的に学校の性格が異なり比較することが無理なのは十分承知しています。

お茶大生はとても勤勉です。人の噂に聞いたり，今迄予想していた以上に地理科の人たちはよく勉強しているように見うけられます。講義室を垣間見るに，せっせとノートをとっている人たち，そして，いつも幾人かは放課後，休み時間さえ利用して研究室，控室で静かに本や地図に取組んでいます。板付き蒲鉾の如く机から離れません。時折，頁をめくったり，目が上下左右に運動しているところを見れば眠っているのではないようです。この勤勉さは本質的なものかも知れませんが，一つには専任の先生方の熱心な指導と，学科の1クラス平均15名弱という少人数制によっていると言えます。私が在籍した社会科地歴課程の1クラスの人数は105名で，授業の中で一番数の少ないものでも地理ゼミナールの時の28名でした。専門科目の授業で100名を越すものは多かったし，一般教育に至っては大教室で300人位の学生に向ってマイクで講義内容を流すのは珍しいことではありませんでした。代返にはもちろん都合よく，後のほうで眠っていたり，週刊誌を読んだり，世間話をしていてもそれ程目立たない代りに，多数の中で，先生と学生，学生同志の疎通が少ないためお互を規制することができず無気力になっていく傾向がありました。その点，何人もの先生に専門の勉強，個人的問題に気を配ってもらえ，一人，一人が大切にされているお茶大生を羨しく感じました。

3・4年合同のゼミナールに参加できるのは最近の楽しみの一つです。3年生の「メラネシア・ポリネシアの地誌」発表も下調べに時間がかけてあるのかなかなか聞きごたえがあり，質問の応酬も活発になってきました。調べてきた新しい知識を伝達することは意義あることですが，その上，レポーターが自分なりの問題点をさぐり出し，全員に提供し，いろんな意見を聞くことも大切です。この場の主体はレポーターにあるのですから，ゼミナールの討論を盛んにするため多少の演出があってもいいでしょうし，知識の表白に相互交流が加われば，さらに知識に深みがますのではないでしょうか。もっ

ともっとやっつけたり，やっつけられたりする姿を見せて下さい。

お茶大での感想を少しばかり述べましたが，なにはともあれ，野放図な自由の中で人間味あふれる友だちを得た早稲田の杜は懐しく，来たる新しい生活にファイトを燃しているこの頃です。



スポット

私の近況

井上須美子

梅雨に入りうっとうしい毎日でございますが，皆様お健やかにお過しでいらっしゃいますか。

卒業生の皆様もお聞きおよびかと存じますが，私，去る3月末をもちまして，長い間お世話になりました地理学教室を辞し，4月より神奈川県立川和高校の教諭になりました。お茶大在職中は，諸先生方をはじめ貝山さん，皆々様に一方ならずお世話になり，誠にありがとうございました。

川和高校は横浜市港北区にできた新設校で，今は1年生しかおりません。新設校というのは文字通り何もかも新しく作っていくわけで，なかなか大変ですがそれだけにやり甲斐もあります。校長以下20名という小人数の教師で学校運営をしていく関係上，1人2役も3役もやることになり，私もクラス主任（偉そうですが2人のうちの年長者というので），生活指導部，P.T.A評議員をおおせつかり，なかなか多忙です。生活指導部も特に訓育と清掃の係とあって，生徒にぐっとにらみを効かせなければならないところです。家庭科の先生がいらっしゃらなかったため，女生徒の制服のデザインまでするはめになりました。地理とデザインではあまりにかけはなれたことですが，いろいろ研究した結果，他の学校にみられない一寸ユニークな制服ができ上り，割に好評を博していますので，気をよくして目下盛夏用ブラウスをデザイン中です。

この学校は男子の方が多く，共学ではありますが席を同じくせず，男女別のクラスになっています。私は女子のホームクラスの担任で，授業も女子3クラスと男子1クラスを受持っております。担当科目は地理で，1クラスの人数が50名以下ですから割にやり易いです。教材教具も最少限度揃えていただき，一寸小型地理学教室ができた感じです。中でも地図黒板・ビニール製地球儀・プラスチック製地形模型などは大へん使い易く活用しております。